

1 これまでの経過など

- 平成 4 年度以降、景気の低迷などから、赤字経営が続いていたが、関係者の支援のもと不断の改革により、2 5 年度には単年度収支が黒字化し、2 7 年度からは収益の一部を施設整備に向けて基金を造成中。
(令和 5 年度末基金造成額約 1 3 0 億円 (見込))
- インターネット発売が 9 割以上を占め、発売構造の大きな変化に対応した D X 化の推進。

【課題】

『第 3 期北海道競馬推進プラン』に基づく展開方向(R3～R7)
競馬場の整備と合わせ競馬ファン(来場者・ネットユーザー)の満足度の向上

〈門別競馬場の再編・整備〉

- **既存のトレーニングセンター(昭和 57～60 年度整備)を競馬場に改修したため、施設規模及び配置に課題。**
 - ・老朽化により「ヒト」にとっては住環境の悪化によるきゅう務員などの離職、「ウマ」にとっては馬房が狭く接触によるケガのリスクが課題。
 - ・「来場者」エリアが狭く、他主催者と比較して競馬場収容能力が低い。
 - ・きゅう舎と住居の一体化による火災のリスクや人と馬との接触など公正確保上の問題。
 - ・馬道と車道が共用のため人と馬との接触など安全面上の問題。

対応方向

- 安全で馬ファーストな環境づくりに向けたきゅう舎エリアの整備(認証機能によるセキュリティ)
- 効率的な競馬運営とファンサービスに向けた業務・来場者エリアの整備(WiFi、監視カメラ)
- 快適で住み心地よい定住環境づくりに向けた住居エリアの整備(通信環境の整備) など
※ カッコは主な D X の取組

〈競馬ファンへの情報発信の D X 化〉

- **インターネット主体の発売構造に対応した更なる情報発信の強化が課題。**
 - ・LINE など SNS を活用した情報の質、量的向上。
 - ・主催者自ら競馬の魅力を適時適切に発信。
 - ・馬産地ならではの魅力ある情報発信。

- Youtube 発信に向けたスタジオなどの環境整備
- 坂路調教など充実したレース情報の提供に向けた情報機器等の整備
- ネット上で競馬場の魅力を感じられる Google ストリートビューの活用 など

2 門別競馬場の再編・整備

安全で馬ファーストな環境づくり

きゅう舎エリア

(競走馬を管理する施設群)

1区画当たり 整備期間(R6~R7)

- ・きゅう舎(24頭規模) 1棟
- ・倉庫兼事務所 1棟
- ・競走馬運動場 2箇所
- ・「オーキック」マーン 1基

× 33区画

効率的な競馬運営と
ファンサービスの向上

業務・来場者エリア

(開催業務に必要な施設群)

主な施設 計画中(R7~R9)

- ・調整ルーム(騎手の外部接触を遮断する施設)
- ・検量棟(騎手や鞍の重さを量る施設)
- ・装鞍所(馬体重測定や鞍を付ける施設)
- ・検体所(競走馬の薬物検査用検体の採取施設)
- ・交流厩舎(他主催者参戦の競走馬繋留施設)
- ・パドック(レース前の競走馬をファンに見せる施設)

快適で住み心地よい定住環境づくり

住居エリア

(競走馬を世話する人の住宅群)

施設の概要 計画中(R8~R9)

- ・調教師(競走馬のトレーナー)やきゅう務員(トレーナー)のもとで競走馬を世話する人が居住する施設

単身向け(1K程度)、世帯向け(2~3DK程度)の集合住宅

■整備前



改築
配置替え

■整備後



エリア	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
きゅう舎	用地整備	整備期間				新たな施設でスタート
業務・来場者				計画段階		
住居				計画段階		

※ 競馬の開催を休止せず、知事の付属機関である「北海道地方競馬運営委員会」等の意見を伺いながら、R9年度までの複数年で整備。

整備に当たっての基本的な考え方

- 整備費用は、北海道地方競馬経営安定基金による充当と地方競馬全国協会からの補助金などを基本とし、競馬事業の経営状況（収支）等を踏まえ、毎年度の予算編成過程で検討する。
- 業務・来場者エリア及び住居エリアの整備費は、今後、実施設計の段階で精査し、事業費の圧縮に努める。

整備主体

- 地方競馬全国協会からの補助金などを受けるため「一般社団法人北海道軽種馬振興公社」が整備主体となる。

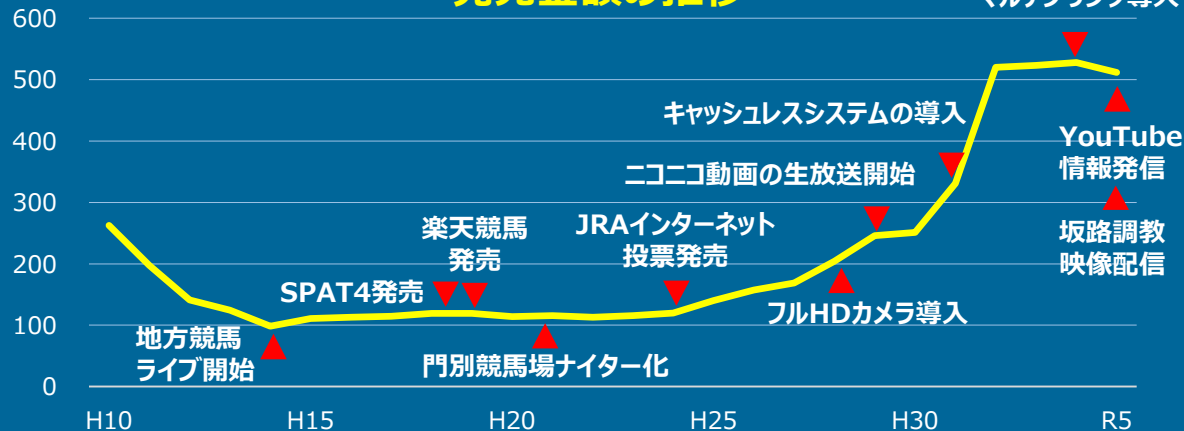
整備費（見込み）

きゅう舎エリア (R5～R7)	業務・来場者エリア (R7～R9)	住居エリア (R8～R9)	計
103億円	約104億円	約43億円	約250億円 (見込み)
【R6から本格整備】	【計画段階：今後、事業費等の精査】		

3 競馬ファンへの情報発信のDX化

ホッカイドウ競馬におけるこれまでのDXの取組

発売金額の推移



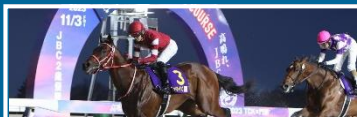
【インターネット発売割合】 35% → 64% → 83% → 93%

インターネット投票の導入



馬券をどこでも購入可能

レース映像のネット配信



競馬をどこでも視聴可能

高精度機材(HD)の導入



鮮明で迫力ある映像配信

マルチプリンタ導入



競馬新聞を手軽に購入

キャッシュレスシステム導入



馬券購入の利便性向上

YouTubeでの情報配信



馬券予想の情報提供

今後の展開方向

情報発信の強化

- スタジオなどの環境整備によりYouTubeを活用したレース映像のライブ配信やファンとの双方向の交流拡大
- 情報機器の整備により坂路調教映像など充実したレース情報の提供
- Googleストリートビューを活用した門別競馬場のバーチャルツアーの提供
- LINEなどSNSを活用したイベントやレースなどの積極的な情報提供
- 競馬の予想情報などをホームページで発信
- 競馬専門サイト等を活用した重賞競走のレース展望など情報の充実
- QRコードを活用した競馬新聞の情報の充実
- 4Kカメラの導入でより鮮明なレース映像の提供



開催経費で対応

DX

質・量的変化

IT化

ホッカイドウ競馬の魅力向上!

発売の拡大・収益の増

競馬運営の安定化